愛の一声（あいさつ）運動

地域ぐるみで青少年の健全育成を目指す本会は、「愛の一声（あいさつ）運動」を、好間中学校（齋藤洋子校長）の先生方やＰＴＡの皆さんと連携し、第一回は昨年六月六日～九日、第二回は昨年十月十一日～十四日、第三回は昨年十一月七日～十一日に実施しました。

好間中学校の正門と西門の前で、朝七時二十分から四十五分まで、本会会員延べ百二名と、学校関係者の皆さんが、生徒達と元気に「おはようございます」とあいさつを交わしました。

近年、子どもたちが被害者となるような、あるいは加害者となるような、いたましい事件や事故が後を絶たない状況ではありますが、元気に登校し、笑顔であいさつを交わす子どもたちの姿を見ていると、ほっとするのと同時に、明るく伸び伸びと、楽しい学校生活が送れるよう祈りたくなります。

今後も、子どもたちと心を通わせ、温かく見守り支えてゆく取り組みとして、あいさつ運動を継続していきます。

元気よくあいさつを交わしました。

大人が変われば子どもも変わる運動

ー青少年の心を育てるキャンペーンー

「子どもは、社会を映す鏡。」
そんな考え方に立ってみると、
私たち大人から、
先にしなければならないことが
たくさんあります。
まず、大人自身が変わること。
そして、
子どもたちを温かく見守り、
支えてあげること。
さあ、はじめましょう。

できることから、大人から

おやこ体験教室「手作りピザに挑戦!!」

昨年十一月二十日、好間町地内の大和田自然農園において、好間地区の小学生とその保護者十四家族・四十四名が参加し、ピザ作りを体験しました。

大和田自然農園の皆さんにご指導をいただきながら、ピザ作り開始です。

はじめに、ピザ生地がくっつかないように、作業台に米粉をまぶして、麺棒で伸ばしていきます。充分に発酵し、弾力のある生地は、一度伸ばしてもまた戻ってくる感覚ですが、親子で協力しながら、程よい厚さになるまで伸ばしていきます。参加者の多くが円形に、中にはハートの形にするなど、ユニークな形に作り上げる参加者もいました。

次に、伸ばした生地にトマトソースや具材の盛り付けです。初めにトマトソースを塗り、子どもたちの好きなウインナーやコーン、キノコなどの具材を乗せ、最後にチーズを振りかけて盛り付け完成です。盛り付けたピザは、レンガ造りの石窯へ。薪の香り、香ばしい匂いが農園中に漂い、参加者は待ちきれないといった様子で、窯を覗きながら楽しみに待ちます。薪で熱せられた窯の中はとても高温で、一～二分で焼き上がりました。外はサクッ、中はもっちり、チーズもとろーり、おいしそうな焦げ目もついて出来上がり。

早速、家族で切り分けてパクリ。焼きたての、しかも家族で協力して作り上げた手作りピザを頬張ると、参加された皆さんからは「おいしい」の言葉とともに笑顔があふれていました。

今回の体験教室の目的である「親子の絆」をより深めることができた晩秋の穏やかなひとときとなりました。

親子で協力して作り上げます。

好間ジュニア学級

好間ジュニア学級は、好間地区の小学四～六年生を対象に、レクリエーションやものづくりなどの講座を行い、学区間や異学年の交流を通して、子どもたちの親睦を深めることを目的に開催しています。

今回は、昨年十二月十日に実施した「もちつき体験」の様子を紹介します。

講師として、好間地域赤十字奉仕団の皆さんにご協力をいただきました。

最初は、餅つきです。まず、蒸かしたもち米を臼に入れ、杵でつぶすようにこねます。体重をかけながら、素早くもち米の粒をつぶしていきます。粘りが出てきたら、ここから餅つきです。大きな杵を振り上げて真ん中を狙って振り下ろします。初めはなかなか思い通りにいきませんでしたが、悪戦苦闘しながらも、みんなと力を合わせて、粘りのある餅がつき上がりました。

次に、つき上がった餅を使って鏡餅を作ります。初めて作る児童も多かったのですが、好間地域赤十字奉仕団の皆さんのアドバイスと少しのお手伝いをいただき、立派な鏡餅ができ上がりました。

最後に、お雑煮やあんこ餅も振舞われ、お代わりする児童もいるなど、大好評でした。

今回の餅つきや鏡餅作りの体験を通して、日本の伝統文化に触れるとともに、蒸かしたてのもち米を試食するなど、普段、中々できない経験ができたのではないかと思います。

狙いを定めてヨイショ！

家庭のちかい

５４３２１
つつつつつ

親親親親親
ももももも
子子子子子
ちちちちち
ちちちちち
ちちちちち